

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念の唱和を行い、共有して行動指針としている。理念に沿って、日々の目標を個人ごとに発表し、その日の業務にあたっている。	法人の理念、ホームの理念、毎月発行される倫理についての冊子などを基に毎朝唱和している。法人としての「13の徳目」では、毎日目標を決め1日の振り返りを行い、職員は毎月月末、管理者に一ヶ月の振り返りとして文書で提出し、管理者からの感想を頂き、常に利用者本位のサービスに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム前のフラワーロードは植え付けから夏の水やりを職員が当番で行い管理している。近隣の幼稚園児が運動会でのお遊戯や演奏を披露しに来てくれたり、毎月ハーモニカ演奏のボランティアの方々が訪問があり、顔なじみとなり皆様の楽しみになっている。地域の公民館活動である芸能祭に、ご入居者の創作作品を出品して、展覧会を見に出かけている。	地区には法人として協力費を払っている。ホーム前のフラワー街道にはホーム担当の場所があり、花の管理を行っている。近くの幼稚園児が敬老会に来訪し、遊戯や鼓笛隊の演奏を披露し、利用者を和ませている。小学校の音楽会の招待を受けたり、中学生の職場体験や短大生の実習生の受け入れも行い、利用者で交流している。ボランティアについても、ハーモニカの方は毎月、手品・踊りなどのボランティアも行事や夏祭りなどに来訪しており、利用者も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の中学校2校からの福祉体験学習を毎年春と秋に受け入れており、認知症についての理解に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状の報告を行い、ご意見や質問の内容を活かしてサービスの向上を目指している。	家族、中原区と八幡区の区長、民生児童委員、老人クラブ代表、市職員、地域包括支援センター職員などの参加により2ヶ月に1回開いている。ホームからは利用者の状況報告を行い、意見を頂いている。10月には近くに出来た同じ法人グループ系列の住宅型有料老人ホームの見学にも行かれたという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所担当者とは地域包括支援センターの管理者の方が運営推進委員なので、定期的にホームの状況を報告している。地域包括支援センターとは入居や退居の際の相談などを密にとっている。市の口腔歯科保健係の訪問歯科検診を随時利用して、ご入居者の歯や義歯の状態を保ち生活の質向上につなげている。毎月訪問の介護相談員を通して、市担当者との連携もしている。	今年8月に社会福祉法人になったこともあり、手続きなどについて市担当部署から助言を頂きスムーズに行うことができた。市内のグループホーム連絡会が開かれる時には参加し情報交換している。市の介護相談員6名が2名ずつローテーションを組み、月1回来訪している。来訪した時の報告は1年分をまとめて市から頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として身体拘束排除の宣言があり、年1回の研修を行っている。状態によって拘束が必要と思われるケースでも、ミーティングで代替え方法が本当に無いかを検討し、拘束しないケア方法を選択している。万が一の離施設時の交通事故防止のため、玄関は施錠となっているが、職員同行で外出できるようにしている。	年1回は「身体拘束・高齢者虐待について」と題し、内部研修を行っている。また、月に1回はミーティングで話題にし意識している。国道に面していることもあり、利用者の状況によっては家族と相談の上、利用者の安全を第一にセンサーを使うことがあるが、常に解除に向けたケアについて検討を重ねている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に資料の読み合わせや事例検討、またグループワークの話し合いなどの内部研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	子供のいないご夫婦の入居者に対し、地域包括支援センターと協力してご家族との話し合いの機会を設けて、成年後見制度を利用していただくように支援した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事前に契約書・重要事項説明書をお渡しして内容を確認していただいた上で、契約時に口頭にて説明をしている。事後でも不安や疑問については、随時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者の日々のご要望は傾聴し、ご家族からのご要望があれば迅速な対応に努めている。月1回介護相談員の訪問があり、ご入居者からの直接のお話などがあった際には、報告を受け対応している。	常に利用者からは希望や意見をお聞きしながらケアに活かしている。家族には面会時に日頃の様子をお伝えし希望をお聞きしている。ご夫婦で利用されている方がいたこともあり、入院された際には職員が面会にお連れしたこともある。誕生会は月ごとに行い家族に声掛けし参加していただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット毎のミーティングには必ず管理者が出席し、職員からの意見や提案を聞き、運営方法の改善に活かしている。代表者は昼食をホームでとり、ご入居者との交流や職員とのコミュニケーションを図っている。	毎日の朝礼は2ユニット合同で15分ほど行い、ケアの統一を図っている。ユニット会議は基本的に全員参加としている。職員は年1回から2回、管理者あるいは理事長と面談を行っている。管理者が日常の職員の様子を見て声掛けし、ストレスチェックも行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談を行い職員の要望などの把握をしている。可能な限り個別の公休希望は要望通りの調整を行い、生活施設での交代勤務のストレスが軽減できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ごとのスキルに応じた外部研修の機会を確保している。研修情報を掲示したり、職員からの参加したいとの申し出があった研修はシフト調整をして参加できるようにしている。内部研修を毎月のミーティング時に実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域のグループホーム連絡会に参加し、ネットワーク作りをしている。職員は外部研修参加により、同業他社との交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心できるように、十分にお話を聞き、1対1対応の機会を多くして、安心を確保できるように信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な気持ちに寄り添いながら、アドバイスや提案をして安心して頂けるようにしている。ご家族が訪問しやすいように、いつでも来ていただけることを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要であれば他サービスの利用も含めて支援計画を立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛り付けやお皿拭きなどの後片付け、雑巾縫いなど生活の場面で出来ること、得意なことをして頂き、お互いが必要とされる関係作りに務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設としてできる事、できない事を誠実にお話して、ご家族としての協力していただけることを一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望があるときは自宅付近までドライブに行き、田んぼの様子を見たり、菩提樹のお寺に寄り道している。秋にはたまたま家族の稲刈りに遭遇し、ご本人・ご家族ともに喜んでいただいた。田舎ならではの季節行事(獅子舞・どんど焼きなど)慣れ親しんだ風習などを大切にしている。法事への参加や隣近所の付き合いができるように送迎などもしている。	近所だった方、姪や甥、親戚の来訪がある。時々外泊される方もおり馴染みの関係の継続を支援している。季節の行事を大切にしており、近所の獅子をお借りし職員が獅子舞を披露したりしている。また、事務所のダルマに目入れをして頂いたり、居室に正月の飾り付けをし、どんど焼きもホームで行い、繭玉も作り、全員で頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや雑談を通して、ご入居者同士のコミュニケーションが取れるよう、食席を変えたり、職員が介在して言い直したりして支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後療養病床に入院された方に対し特養への申し込みや転居までの支援を行った。 家族の意向で在宅復帰する方については、地域包括支援センターとの連携により、小規模多機能事業所とも情報交換している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活が送れるような支援に努めている。ご本人が望む事、したい事できる限り行うように努めている。	半数の利用者は声掛けすれば、希望や意見を伝えることができる。干し柿づくりや雑巾縫いをされるなど、現在の力量を継続できるようにしている。希望により外食やドライブなども楽しまれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から生活歴や暮らし方などを聞いたり、支援に関わってきた方(在宅ケアマネージャー・地域包括担当者)より情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録や勤務交代の際の申し送りおよび連絡ノートなどから、心身状態の変化を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ユニットミーティングを行い、現状の課題と今後の対応についてチームで話し合い、ケアの方法を決めている。決定に際しては、「パーソンセンタードケア」に則れているかを検証しながら検討し、現状に即した計画としている。	利用者の担当職員が毎月実施状況进行评估し、月1回のミーティングでモニタリングを行い検討している。短期目標は6ヶ月、長期目標は1年を目安に見直しているが、状態の変化に応じて随時の見直しも行われており、常に利用者 に合った計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者個々の様子を生活記録に記入し、職員間で共有して日々の支援に活かしている。実践の結果を毎月職員間で共有し、ケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や通院など、施設外でのサービスについても個別対応としてサービス提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(花火大会・草競馬)などに出かけたり、小学校の音楽会や冬のイルミネーションを見に行ったりと外出の楽しめる機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との往診および急変時の対応など、日頃からの連携を密にして適切で迅速な医療対応をしている。	利用契約時に協力医があることを説明し、希望をお聞きしている。利用前からの主治医を継続している利用者もいる。協力医による往診は月1回で、状態により2回の方もいる。週3日、半日勤務の看護師が非常勤としており、24時間オンコール体制で利用者の支援をしている。市の歯科衛生士の訪問指導もお願いでき、歯科医とも連携し、往診をして頂いている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3日非常勤看護師が勤務して、健康状態の把握を常に行っている。24時間のオンコール体制をとっており、緊急時には夜間も連絡を取り合って適切な対応をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には介護・看護サマリーにより双方での情報交換を行っている。施設の受け入れ態勢・設備などの状況を理解してもらうために、病院スタッフに施設見学をしてみた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に終末期におけるご家族の意向を聴取している。重度化に対する指針のご説明をして、方針の共有を図っている。主治医との連携を図り、ご家族と主治医との意向確認の場を調整している。	利用契約時に説明し希望もお聞きしている。重度化した時には改めて協カクリニックで医師と家族、ホーム関係者で話し合いを行い、利用者・家族の希望に添えるよう支援している。看取りの検討もしたが、小まめな支援により元気になられた方もいる。職員間の連携を大切に日々体調の変化を見逃さないよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてのマニュアルを設置し、初期対応については内部研修を行っている。施設内にAEDを設置しており、具体的な使用方法についての研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災についてはスプリンクラーと自動火災報知器を設置しており、年2回の消防訓練もしている。運営推進委員の地区長を通じて、地区の消防団への施設の存在について周知してもらっている。	昼間と夜間想定で、年2回、避難訓練を行っている。12月には設備点検があり、合わせて消防署立会いの下、避難訓練が行われる予定となっている。備蓄については、常備食を多めに用意している。水等の保存食も検討している。年1回防災についての研修も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や尊厳保持の内部研修を行っている。職員へ毎月配布している「13の徳目」を通して対人援助を行う職業人としての成長ができるよう、日々の実践を振り返る機会を設けている。尊重を念頭に置き、動作を行うときの声掛けは、指示ではなくお願いするようにしている。	今年度4月には「接遇マナーについて」、12月には「プライバシー保護・尊厳保持について」の研修を行い、初心を大切に人生の先輩として接し、常に利用者の立場になってケアに取り組んでいる。男性利用者及び男性職員がおり、排泄介助や入浴介助などは利用者の尊厳を大切にし、同性介助が良いかどうか希望をお聞きし対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しますか？」と尋ねることで、ご本人がしたい事を引き出せるように声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての日課スケジュールはあるが、体調などを考慮しながらご本人の希望を優先し、ひとり一人が自分のペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時など衣類の選択を促し、自己決定可能な方は自分選べるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食器拭きなど個別の力を考慮しながら、職員と一緒に準備してもらい、会話をしながら一緒に食事をしている。	一部介助、全介助の利用者には職員が隣に座り楽しい食事になるよう支援している。献立は食材会社に委託しており、週1回は「お楽しみメニュー」を選んで発注している。専門会社に委託することでカロリーの管理が出来ており、レシピもあり、幅広いメニューで提供できている。誕生日は3時のお茶の時間にケーキで祝っている。外食については予約し、全員で出掛けることもある。理事長も毎日利用者と一緒に昼食を取り、利用者の様子を見ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は食事毎にチェック・記録し、不足している状態の場合は看護師と連携し、補うようにしている。その際は味に変化をつけたり、違うものを試したりし、ご本人の嗜好に合わせられるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別の口腔ケアを実施している。必要時には市の口腔歯科保健係へ検診を依頼し、状態確認後に訪問歯科による治療や義歯調整が受けられるように支援している。歯科の協力医との連携もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握しながら、トイレ誘導を行っている。夜間のみポータブルトイレを使用したりして、可能な限り排泄の自立が継続できる支援をしている。随時状態に合わせて排泄用品も変えている。	自立している利用者も数名いる。一人ひとりの排泄パターンを把握しており、様子を見ながら何気なく声掛けしトイレでの排泄を大切に支援している。布パンツにパット使用、リハビリパンツ・オムツ使用など、一人ひとりに対応しているが、気配りにより出来るだけ減らすよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消のために下剤の使用もしているが、起床時の牛乳提供や自家製ヨーグルトの提供など飲食物の工夫をしている。立位保持や歩行可能な方は、できるだけ歩行の機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい気持ちを大切に、曜日や時間を決めずに、個々のペースで入浴を楽しめるようにしている。無理な誘導はせず、タイミングを計って声掛けしている。	基本的に週2回の入浴とし、毎日、午前と午後、入浴が可能となっており、1日3名を目安にその都度声掛けし入浴していただいている。拒まれた時には声掛けの順番を変えたり、職員を変えたりするが、無理な時には、バケツで足湯をして頂くこともある。ゆず湯や入浴剤により楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やご希望により休息時間をとり、就寝時間は個別にその時の状況で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容の説明書を個別管理して、内容変更時にはその都度確認できるようにしている。新しい処方薬について、必要時には看護職より注意点の指示をもらう。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできる力を活かして、食事の盛り付けや後片付けなどの家事に携わって役割が持てるよう支援している。ご要望により晩酌を楽しんでもいただいている。ドライブや散歩などの外出支援により、気分転換の機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設敷地の花々を楽しみながらの屋外散歩や桜や紅葉など、四季折々の季節感のある場所へ外出のレクリエーションを行っている。入院中の夫へのお見舞いも定期的に行っている。	毎年お花見や紅葉狩りに出掛けている。地区の花火大会の見学や小学校の音楽会に招待され参加している。9月には敬老会を兼ね、近くの道の駅に予約をし外食に全員で出かけたという。2~3人ずつでドライブも楽しんでいる。11月3日に近くで開かれる年1回の草競馬の見学にも出掛け、慣れ親しんだイベントを楽しまれている。	

グループホームあゆみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の力に応じて、買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人の力に応じて、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは不快にならないように清潔を心掛けている。玄関やリビングには季節感が感じられるように生花や鉢植えなどを置いたり、生活の様子や行事の写真、共同制作の作品などを飾っている。	建物の真ん中に事務所があり、事務所を挟んで東ユニット、西ユニットとなっている。敷地内には夏祭りやバーベキュー大会が開かれる広い駐車場があり、建物全体が陽当たりが良く、リビング前のウッドデッキではお茶が楽しめ、非常時には各ユニットの非常口以外の避難口ともなり安心できる。浴槽も一般浴槽より大きめでゆっくり楽しめる。北には浅間山が見え季節の変化も感じ取れ、居心地の良さが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の希望に沿った場所で過ごせるように、食事席のほかにベンチなどを置いて、その時の気分でも過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅の馴染みの品や思い出のあるものなどをご持参いただき、居心地の良い空間となるように配慮している。	ホーム全体が床暖となっている。各居室にはクローゼットとエアコンが完備され、換気扇も備えられている。馴染みの物やテレビなど、思い出の物が持ち込まれ、家族の写真や誕生会に頂いたメッセージカードなども飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はトイレの場所がわかりやすいように、目印や矢印記号などを掲示している。		